

問 第4次総合計画の「生活環境整備面」は、順調に進んでいるか
答 ほぼ計画どおりだ。今後も創意工夫で実現させていく

第4次総合計画



地元のお接待と花々を楽しみながらゆっくり散歩
 (さるこいフェスタ)

問

計画のなかの生活環境整備面、特に自然環境や公園、クリークの整備面で立ち遅れていないか。

町長 国、県の補助を活用しながら、前年度までに農村総合整備事業として6351m、防災事業として2万5433mのクリーク整備を実施している。

両事業を合わせて47億5100万円の費用がかかった。今後も事業の予算確保のため、国、県に対し積極的に要望活動を行いたい。

問

公園整備は、大溝小学校東側のクリークを活用した水辺公園を本年度中に整備する予定だ。

散歩道は新たに整備せずに、クリークに接している土地改良の道路の有効活用を考えている。

総合計画は本年度から後期に入り、主要な事業は、ほぼ順調に進んでいる。財政状況は厳しくなるのが、創意工夫で計画を実現していきたい。

問

毎年度、向こう3年間の実施計画を策

定し、見直しをされているが、生活環境整備面の実施計画はどうなっているか。

まちづくり課長 クリークの整備については、町長が答弁したとおり、環境に配慮し、親水性を持たせた工法で取り組んでいます。

また、安心して歩いて暮らせる空間であるために、自歩道の整備とバリアフリー化は、今後も推進していく必要があります。

自歩道整備は、本年度以降に、中学校周辺と横溝の通学道路を計画しています。

問

道路の機能を調査し、その機能に応じた道路を計画的に整備できているか。

建設課長 本年度から4年間で中学校周辺の自歩道整備を行います。

また、歩行者と車が共存できるコミュニティ道路を目指し、道路拡幅工事を計画的に進めます。

国道442号バイパス整備は順次工事が進み、県道

久留米柳川線バイパスも早期事業化に向け取り組んでいます。

問

活力ある農村社会を構築するため、

貸し農園を整備し、花木植樹と遊歩道整備によって町全体を公園化する計画はどうなっているか。

経済課長 貸し農園は3カ所あります。このうち、大角の農園で井戸ポンプを設置するなどの利便性を図り、利用率を上げています。

花木植樹による景観づくりとして、大莞花菴組合主催の菜の花祭りに、い草振興の補助事業を活用しながら支援をしています。

また、れんげは侍島地区だけになりましたが、農家の協力を得ながら、規模拡大の検討をしていきたいと思っています。

遊休農地を発生させないように、農業委員会と連携を図り、担い手への利用権設定の推進やパトロールなどに努めています。